令和５年度　志真志小学校の取り組み

Ⅰ　研究主題名：

主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

Ⅱ　研究主題設定の理由

これまでの外国語活動・外国語科の授業を通して、本校の児童は、積極的に英語表現を聞いたり、基本的な表現を使って質問したり答えたりすることができるようになってきた。その一方で、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童やコミュニケーションをとること自体を楽しむことができていない児童がいる。そこで、外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

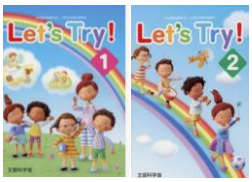
Ⅲ　学年・領域

高学年では「One World Smiles」、中学年では「Let's Try」、各出版社から出されている年間指導計画を基に指導を進める。低学年では、市から提供されている年間計画を基に指導を進める。

低学年の指導内容

- あいさつ、自己紹介
- 気持ち
- 天気、曜日、数
- 色や形
- 果物や野菜
- 動物や昆虫
- 体の部位
- 行事

中学年 Let's Try!1,2



高学年 One World Smiles5,6

Ⅳ　各学年の取り組み

１　１学年の取り組み

LESSON「Vegetables」の学習では、野菜を表す英語表現にチャンツに合わせて慣れ親しんだ。次に、友達に自分の好きな野菜を“I like (vegetable).”とジェスチャーしながら紹介した。最後に自分の好きな野菜（トッピング）を選んでピザを作り、学級のみんなに“I like (vegetable).”と紹介することができた（写真１）。

また、LESSON「Halloween について知ろう」の学習では、ゲームやクイズを通して、外国の文化について知り、楽しんで活動することができた（写真２）。

写真１　児童同士のやり取り①

写真２　児童同士のやり取り②

2　２学年の取り組み（Topic:「What vegetable do you like? 」）

野菜を表す英語表現に親しむ活動を単元のゴールに設定した。ゲームや歌を通して、野菜の英語表現を楽しく覚えることができた。色々な野菜の言い方やアクセントに気づき、積極的に聞いたり言ったりする姿が見られた。野菜の英語表現をインプットしたあと、“What vegetable do you like?”と、友達の好きな野菜をたずねたり、答えたりする活動を行った。ALT とのゲームを通して“What vegetable do you like?”“I like (vegetable).”の表現に慣れ親しみ（写真３）、質問に対してほとんどの児童が英語で答えられるようになった（写真４）。

写真３　ALT と児童のやり取り

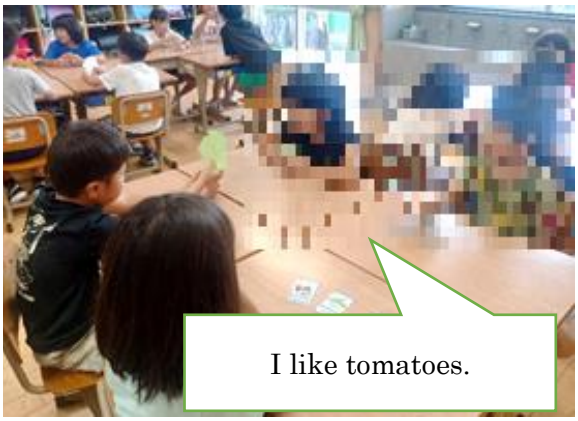


写真４　児童同士のやり取り

3　３学年の取り組み（Let’s Try 1 Unit 9「Who are you? きみはだれ？」）

「Unit 9 Who are you?」では、十二支の動物の物語を教材で扱うため、Unit 8 と単元入替して３学期始めに学習をスタートした。動物の色や鳴き声、特徴などについての英語表現に慣れ親しみ、それらを使ってヒントクイズを出し合うことを単元のゴールに設定した。タブレット端末やミニカードを使って、ALT が言う動物のヒントをリピートするポインティングゲームを通して英語表現に慣れ親しんだ（写真５）。単元最後の「３ヒントクイズ」では、児童は”It’s (color)/鳴き声/特徴.” “I’m a (animal).”と、友達と協力してヒントを考えたり、ヒントの順序を工夫したりしてクイズを楽しもうと活動していた（写真６）。

写真５　ポインティングゲーム

写真６　ペアトークの様子

4　４学年の取り組み（Let’s try2 Unit7「What do you want？　ほしいものは何かな？」）

「What do you want？」の学習では、相手が欲しいものを尋ねたり、欲しいものを伝えたりする表現に慣れ親しんだ。お店屋さんになって尋ねたり、お客さんとして答えたりする活動の中で、単元のゴール「オリジナルパフェを作ってしょうかいしょう」を、児童が相手意識や目的意識をもって活動できようになってきた。タブレット端末でオリジナルパフェを作り、それぞれ名前をつけるという活動を取り入れることにより、どの児童も意欲的に取り組んでいた。ペアで練習し（写真７）、全体で活動する場を設定することで、徐々に表現することに慣れ、主体的に活動する姿が見られた（写真８）。

写真７　児童同士のやり取り①

写真８　児童同士のやり取り②

5　５学年の取り組み（Lesson 8「Where is the station? 」）

「相手にわかりやすく道案内しよう」と単元のゴールを設定した。児童は、４年生の外国語活動 Let’s Try 2「Unit 8 This is my favorite place.」において道案内に必要な言語材料には慣れ親しんできている。デジタル教材の Let’s Watch の動画やそれと連動した Say It Together を活用し、帯活動で毎時間繰り返しインプット＆アウトプットすることで新出表現の定着を図った。相手に分かりやすく案内するという目的のために、話し手は相手の位置や理解の状況を把握しながら必要な言葉を適切なタイミングで伝えること、聞き手は相手の言葉を確認しながら動くことに意識を向け、互いに相手の状況を見ながら協力して活動することができた（写真９,10）。

写真９　児童同士のやり取り①

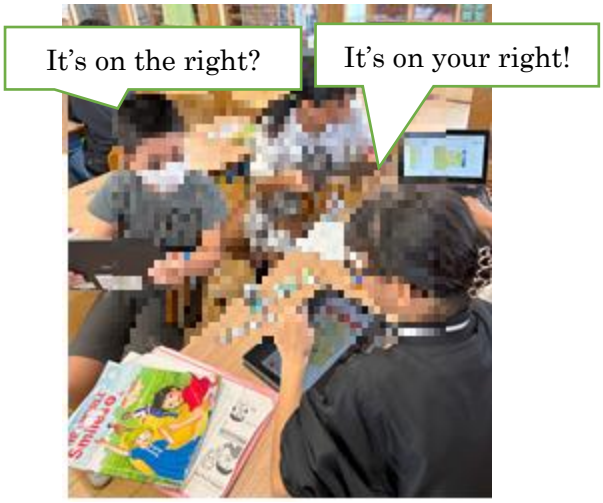


写真 10　児童同士のやり取り②

6　６学年の取り組み

（１）単元名 My Best Memory 小学校の思い出（教育出版『One World Smiles 6』Lesson 7）

（２）単元の目標

①　さまざまな学校行事を、聞いたり言ったりすることができる。（知識及び技能）

②　思い出に残っている学校行事の表し方を知って、聞いたり言ったりすることができる。（知識及び技能）

③　シートをつくって、思い出の学校行事を友達に伝えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

④　相手にわかりやすいシートをつくろうとしたり、友達やお世話になった人に感謝の気持ちを表そうとしたりする。（学びに向かう力、人間性等）

（３）単元の評価規準　◎中心領域「話すこと（やり取り）」

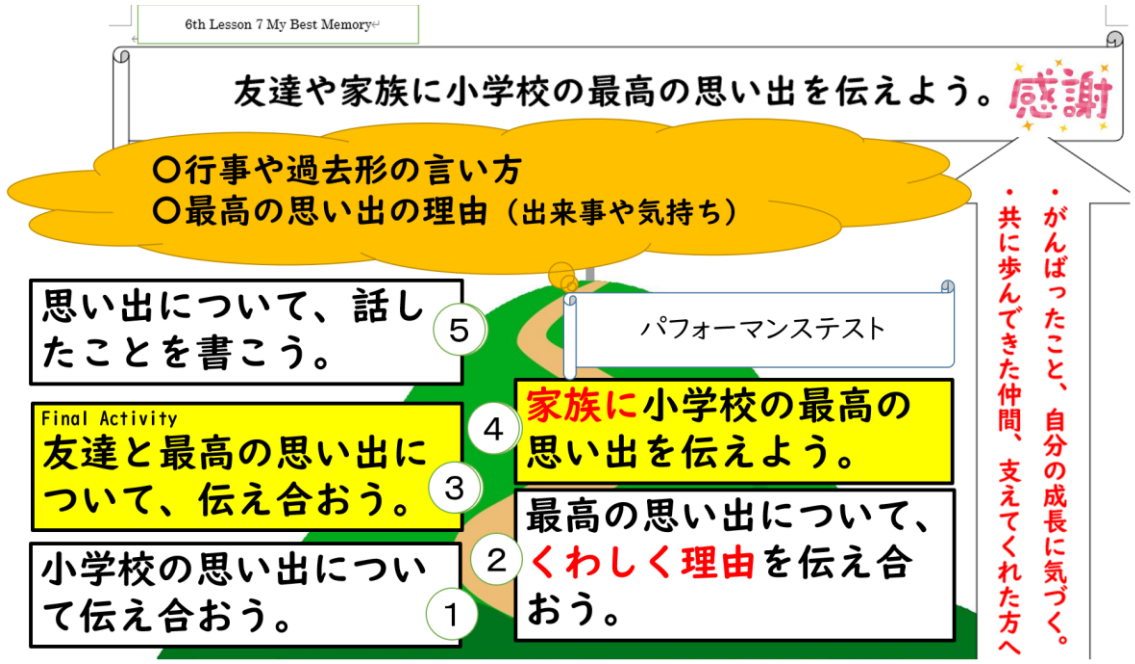
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
＜知識＞さまざまな学校行事の語句や、思い出の学校行事を尋ねる表現（What's your best memory?）、経験したことを表す表現（I [enjoyed / went to / saw / ate] ....，It was [fun / exciting / great / delicious].）について理解している。 ＜技能＞さまざまな学校行事の語句や、思い出の学校行事を尋ねる表現（What's your best memory?）、経験したことを表す表現（I [enjoyed / went to / saw / ate] ....，It was [fun / exciting / great / delicious].）について、伝え合う技能を身に付けている。	お互いの思い出の学校行事を知るために、その学校行事と経験したこと、感想について，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	お互いの思い出の学校行事を知るために、その学校行事と経験したこと、感想について、これまでの学習の中で気づいたことを活かしながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて，伝え合おうとしている。

（４）単元の指導計画・評価計画（全５時間）

時間	ねらい	◇めあて・学習活動	評価規準			評価方法
			知技	思判表	主	
1	さまざまな学校行事の言い方を知り、聞いたり言ったりする。	◇小学校の思い出について伝え合おう。 ・学校行事の言い方を知る。	○			行動観察
2	思い出に残っている学校行事とその理由を表す表現を知る。	◇最高の思い出についてくわしく理由を伝え合おう。 ・既習表現（過去形）を使って、経験したことや感想をどう表現するか考える。		○	○	行動観察
3	思い出に残っている学校行事とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝える。	◇友達と最高の思い出について伝え合おう。 ・既習表現（過去形）を使って、経験したことや感想を伝え合う。		◎	◎	行動観察 振り返りシート
4	思い出に残っている学校行事とその理由について、これまでの学習の中で気づいたことを生かしながら伝える。	◇家族に小学校の最高の思い出を伝えよう。 ・小学校の思い出について、動画を通して家族に伝える。 ・パフォーマンステスト（２学期）	◎	◎	◎	行動観察 振り返りシート パフォーマンステスト
5	思い出に残っている学校行事とその理由について話したことを書く。	◇思い出について話したことを書こう。 ・伝え合った内容をワークシートに書く。	○	◎	◎	行動観察 振り返りシート ワークシート

（５）指導の実際

第１時では、「友達と小学校の最高の思い出を伝え合おう」と単元のゴールと単元計画を確認した（資料１）。第２時では、小学校の思い出について、その経験や感想など、どのような内容を伝えるか、既習表現を使ってどのように表現したら相手に分かりやすいかを考えながら取り組んだ。自分の考えや気持ちを伝えるために、これまでに学習した表現が使えないか、どのように言い換えたら伝えることができるかを学級全体で共有した。自分で気づいたことや改善したいところを意識して、次のペアトークに生かす。ペアトークでは、話の内容や表現の仕方について、お互いに質問したり相談したりして、共有したことを次のやり取りに生かす（写真 11）。Final Activity では、友達の思い出について、様々なエピソードを知って楽しむ姿が見られた（写真 12）。また本単元では、これまでの家族への感謝の気持ちを込めて、小学校の思い出について伝える場面を撮影し、動画で家族に伝える取組を実施した。



資料１　単元計画

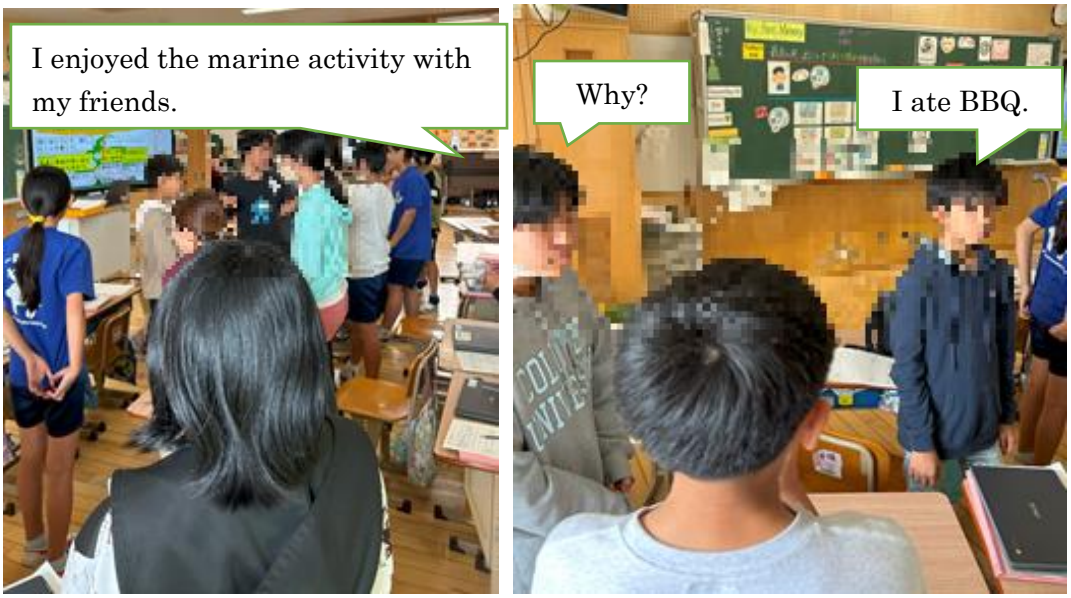


写真 11　児童同士のやり取り

写真 12　Final Activity の活動の様子

V　成果と課題

1　成果

（1）　天気の表し方、曜日や気分の言い方など、身近な事柄に関する英語表現を繰り返し聞いたり言ったりすることで、積極的に表現しようとする姿が見られた。

（2）　ゲームやチャンツ、ペア学習など様々な学習形態を通して、基本的な表現に慣れ親しむことができた。目的意識を持つことで、主体的にコミュニケーションをとって活動しようとする児童が増えた。英語を類推しながら聞くことができるようになってきた。

（3）　身に付けた基本的な英語表現を使って、聞いたり話したりすることができる児童が増えた。教師と児童で、第１時で単元のゴールと単元計画を確認することで、児童が相手意識や目的意識、単元の見通しを持つことができた。目的に向かってやり取りする中で自分の考えを広げたり深めたり、主体的に自分の考えや気持ちを伝えようと活動する児童が増えてきた。

2　課題（改善策）

（1）　コミュニケーション自体を楽しむことができず、英語を使って話すことに苦手意識をもつ児童がいる。低学年においては、学年や学級に応じた学習活動の工夫が必要である。中学年、高学年では、低学年での歌やゲームでの言語への慣れ親しみから、単なるリピートではなく、英語と使って自分の考えや気持ちを伝えるという言語活動に近づけるための活動を通して、目的に応じたコミュニケーションへの気づきを促したい。互いに伝え合うことの楽しさを実感できるよう、相手意識や目的意識を高める学習内容や指導方法を工夫する。

（2）　自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童がいる。取り上げている話題に対してどのように考えるとよいか、Small Talk や Let’s Talk など教師と児童、児童同士のやり取りを通して、思考や表現の仕方を指導する。また、外国語活動・外国語科でのやり取りを通して、コミュニケーションを図るときに大切なことや楽しさについて気づかせていきたい。

Ⅵ　外部評価

（１）　学校で実施した保護者アンケートの結果

６学年保護者アンケートにおいて、「外国語科の学習における児童の姿から、学習の成果を生かし主体的に学習に向かう姿勢が向上していると思いますか」の質問項目に対し、「とても思う(61.2%)」「まあ思う(34.7%)」と、95.9％の保護者が肯定的な回答だった。

（２）　外国語の取組に関する意見・感想等

- 本人が英語に興味が出てきていると思う。
- テレビや音楽の中で聞こえてくる英単語に反応するようになりました。これからも楽しみながら学べる機会を作って頂けたらと思います。
- 回を重ねるごとに発音や声量、文章力も上達していると感じました。
- 単元を追うごとに息子の英語力が上達していくのを見て（聞いて）、授業の方でも頑張っているんだなと思いました。
- 英語の授業を通して、英語を喋る機会がこういう風にあり、友達と練習しながら身についていくのは、とても良い取り組みだと思う。
- 自分の力で単語を調べ文章にしていると聞いて、６年生でここまでできることに驚いています。これからも積極的に ICT を活用した学習を進めてほしいと思います。
- 親子で英会話をしていると、「お母さん、これは過去形だね。」といってくれることにすごい成長を感じました。
- だんだんと表現の方法を知っていく段階が見られて、とても楽しく（児童の動画を）視聴しています。英語を話すハードルが低くなっていると感じます。
- 最初は苦手意識を感じていた英語も、最近は楽しいと感じているそうです。言語を学ぶ上で、インプットするだけではなく「話す」ということがとても重要だと考えています。習った英語を実際に話すことで、英語を使えるようになる学習をしているということが、とても良いことだと思いました。
- 日常会話を多く取り入れ、ネイティブ英語で喋れる英会話を教えて欲しいです。
- 英語に興味があるので、外国の子どもたちと交流会等できれば子供たちも良い刺激になるかと思います。